

いま・いき

12



感謝の数を増やすと人は幸せになる。

「何事もなく無難に」「波風立
てずに穏やかに」という言葉を
他人から聞いた時、みなさんは
どんな印象を持たれるでし
ょうか？

その人に対して謙虚で真面目
な印象を持たれるでしょうか、
それとも頼りなく面白味のない
人だと感じますか。また、自分
の状況においては如何でし
ょうか、何事もなく無難に日々安定
している状態を求めて、それを
安心と捉えて不安を感じないの
か、それともリスクや問題が発
生した時にさらなるレベルアッ
プを期待できると感じるのか、
リスクに対する不安に襲われて
逃げ出したくなるのか。

読者の方はどう思いますか？
もちろん、どちらを選択して

も、正解がどちらかという問題
ではありません。また、どちら
でもないという考え方でも良い
のですが、人間はこのように捉
え方が様々であったり、自分
にとって居心地の良い状況に合
すように、都合良く考え方が変
化するものだと思うのです。

そして総じて言えるのは、何
もせず何も起こらずにこの状
況が続けば楽なので有難い、と思
うようになりがちではないでし
ょうか。

生意気なことを言っている私
でさえ、油断するについつい楽
して幸せな状況をイメージして
しまいます。未だに買ってもし
ない宝くじが当たった事を空想
する時もあるくらいですからね。

つまり今回のお話は、人が生
きて行くということは人生が続
く限り、何かが起こり続けるの
ですが、気を緩めると、その起
り続けてくれていた出来事を
迷惑と考えてしまい易く、本当
は感謝すべきことだと気づかな
くなってしまうという事につい

て改めて考えてみようというお
話です。

今、感謝という言葉を使いま
したが、一般的な困難や迷惑を
うけたことに対して感謝でき
る心や考え方があれば人は幸せ
になります。

また、感謝は人に対するもの
だけではありません、起こった
事柄やものの存在にも、気候に
だって感謝はするものですね。

そして人は感謝する機会が多
ければ多いほど、充実した人生
を送ることが出来るのではない
かと思うのです。

つまり、生きて行くためには、
何かが起こってくれないと、感
謝の数が増えていかなないとい
うことですね。

欲を持ち、効率を追求し、そ
の場の改善に取り組み、進化し
て行くためには失敗や問題点が
必要です。もしそんな課題が無
かったら何を目指し何を目標に
したらいいのか、という発想そ
のものが出なくなり、前向きな
積み上げどころか、現状の切り
崩しが人生の作業になってしま

います。そうなると感謝するこ
との意味を忘れてしまうと同時
に、感謝という言葉自体が退化
してしまう可能性すらあるよう
に思えてしまいます。

確かに何も起こらなければ楽
かもしれませんが、しかしそんな
楽な事ばかりを考えていること
に対して多くの人は、良くない
事だと心の奥で少しは否定して
いるはずですよ。

ですので、積極的に行動や発
言をして、色々な出来事に遭遇
しても、プラス思考の考え方で、
感謝の数を増やすぞ、積極的な
人生を進むぞ、と常に心がけて
もらいたいと思います。

そうすれば、必ず幸せに近づ
けると思いませんか？

よしだ たいち 吉田太一

1964年大阪市生まれ。調理師、
引越運送業を経て、2002年、遺
品整理のサポートの必要性を
感じ、日本初の「遺品整理専
門会社キーパーズ」設立。
著書は「遺品整理屋は見た!」
「遺品整理屋は見た!! 天国へ
のお引越しのお手伝い」「孤立
死 あなたは大丈夫ですか?」
(いずれも扶桑社)など多数。